

下高井農林高等学校 峻嶺会報

峻嶺会会長
村松 剛志
長野県
下高井農林
高等学校
峻嶺会

挨拶
副会長 池田 利恵子



新年を迎えまして、峻嶺会の皆様におかれましては、

如何お過ごしでしょうか。お正月のおめでたい元旦に、全国的に襲った大規模な大地震で、大変怖い思いをしました。

最も被害が大きかった石川県能登半島では、二百名を超える死者、千名を上回る負傷者の皆様、余儀なく避難所生活されている大勢の方々の事を思うと、心が痛みます。そして、自分は何もしてやれない事に不甲斐なさを感じます。せめて、義援金だけでも思い募金をしました。

今も続いている救助作業ですが、ご苦労なさっておられる事とお察し申し上げます。この会報が発行される頃には、復旧・復興の目的が立っていいことをご祈念申し上げます。

皆様の地域は、どの様な状況でしょうか。自然災害は、予期せぬものですが、人命第一に慎重に行動したいものです。避難用品も備えておく事が必須です。

新しい年、早々に痛ましい話題が始まりましたが、昨年はどんな年でしたか。漢字「一税」でした。思い浮かぶのは税金。所得者であれば、多少に関わらず納めなければならぬお金で

す。悩みの一つではありませんが、税について今一度考えさせられました。

さて、昨年、コロナ感染症五類移行となり依然と同様とまではいかないにしろ、皆様の行動がこれまでの様に戻りつつあります。農林高校も例外ではありません。大イベントである農林祭も一般公開が行われ、他の行事も順調に再開しております。各種大会でも生徒達の活躍と努力により、大変優秀な成績を収めており、喜ばしい限りです。

また下高井農林高校の創立120周年の記念式典に向けても話し合いが始まっております。その際には皆様のご協力をお願いする場面があるかと思っております。その時は快くお力添えをお願いいたします。

最後になりましたが、村松会長が体調不良により療養中の為、私が原稿を書かせて頂きました。峻嶺会員の皆様、健康管理にはご留意頂き、今後も地域の行事や活動に御尽力頂き、母校の活動にもご協力頂きたく存じますので、宜しくお願い申し上げます。また、皆様の御活躍をご祈念申し上げます。



外來生物駆除の様子(上) 観察の成果(下)

“Learning by Doing” 「なげんじゅんぎょくがくぶ」 下高井農林高校の近況 学校長 藤田 洋子



峻嶺会の皆様には、日頃より本校の教育活動に対しご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

令和5年度は、3学年が「アグリサイエンス科」と「グリーンデザイン科」の2学科8コース、1・2学年が「地域創造農学科」の1学科2コースでスタートしました。生徒たちは地域を学びのフィールドとしてのびのびと活躍しています。

8月には放置竹林の竹を利用したバンブーキャンドルづくりのワークショップを行い、木島平中学校と連携し、作業を補佐しながら、参加者それぞれがオリジナルの作品を完成させました。

また、10月下旬に行われた道の駅ファームス木島平での「農林市」では、農産物やジャム、ケチャップなどの加工品の販売、そば打ちの実演、動物とのふれあい体験などを行い、学びの成果を披露し販売することで、6次産業化について考えるよい機会となりました。

更に11月には、環境創造コースの2年生が「よしず張り」作業を飯山市の中央橋で行いました。歩行者を風雪から守るために、10メートル四方のよしずを約30枚、10メートルにわたって設置しました。授業で学んだ

「いば結び」を用いて、県職員の方々と協働して行いました。各種大会でも、生徒のめざましい活躍が見られ、農業クラブ連盟各種県大会のプロジェクト発表では、アグリサイエンス科3年生が最優秀賞を受賞、北信越大会に出場し、地元のみゆきネギをもっと知ってもらいたいと昨年度からの商品開発を引継ぎました。

また、そは部は、全国高校生そは打ち大会で団体戦3位、個人で準優勝の成績を収め、団体戦では4年連続の受賞となりました。そはの段位認定では、3段を2名の生徒が取得しました。試行錯誤を繰り返しながら日々実践していった結果だと思えます。

このように生徒たちは、日々様々なことを実践し、学んでいます。アメリカの哲学者ジョン・デューイ氏は、“Learning by Doing”を提唱し、日本語では「なすこと」によって学ぶ」と訳されています。今後も実践的・体験的な学習活動を大切に、地域資源を最大限活用しながら探究的な学びを推進し、地域社会の未来の担い手として活躍する人材を育ててまいりたいと思っております。



1年生田植え実習(5月)
除雪車乗車体験(8月)

副会長に就任して 副会長 渡辺 洋子



この度峻嶺会の副会長に着任致しました渡辺洋子です。久しぶりに農林高校に出向いた時、農場で野菜を育てたり販売に行ったことを思い

支部長に就任して 関東支部 山口 一喜



令和4年度から峻嶺会関東支部長に着任しました。コロナウイルス感染症が猛威をふるっている、同窓会活動も自粛する状況が続きました。令和5年4月から新型コロナウイルス感染症も収束の

方向に向かい同窓会活動は徐々に再開されました。

私は、昭和37年3月農業科を卒業して製菓企業に就職。実験動物の飼育管理と動物実験に携わり、医薬品および医療機器の安全性試験(前臨床試験)を行って来ました。定年後、同窓会活動にも参加し、諸先輩のご指導のもと母校の同窓会活動をはじめ、北信同窓連、東京同窓連の活動にも参加して来ました。

令和5年度同窓会活動として、常任幹事会、総会(3年毎に開催)、支部会報発行(原則として年1回)のほか、上野英樹画伯(昭和41年卒)を中心美術鑑賞会(示現会展および東京展)を行ってあります。また、北信同窓連の活動としては、ポウリング大会(令和5年度は、団体戦および個人戦(小林荘志氏)ともに優勝しました。各校同窓会幹事の持ち回りで、一泊二日の親睦旅行(今年度は伊香保温泉・榛名神社)、親睦ゴルフ大会などに参加してあります。

峻嶺会関東支部においても、近年会員の高齢化が進み、退会者も多くなりました。また、若い会員が殆ど増えていません。この傾向は峻嶺会関東支部だけに限りませんが、今後も同窓会活動を継続し、皆さんが気軽に参加できる雰囲気づくりに努めて行きたいと思っておりますが、皆様の積極的なご参加とご支援をよろしく願っています。



シブガキ応援隊(10月) (環境創造コース 2年)

支部長に就任して

岡山支部 渡邊 敬一



昨年、真夏の九月いっばい続き、雨も少なく農家にとっては厳しい一年となりました。支部の役員を前任者のひげ宗さんこと、江口宗晴さんから引継ぎを受けましたので各支部の活動状況などご指導いただければ幸いです。

同級生の中には、すでに他界した者もいますので今さら役員をお引き受けするのはいかげなものかと思いましたが岡山支部も高齢化が進み若者が少ない状況です。ワンポイントとしてお引き受けした次第です。原稿の依頼を受けたとき普段あまり考えられない当時の学校生活が思い出され懐かしく思います。

私は、昭和45年3月に農業科を卒業し54年が過ぎようとしています。当時は、農業科、生活科がニクラス、林業科が一クラスで一学年200人位の生徒がいたと思います。高校への通学には、飯山線を使っていました。が、まだSLが走っていた時代でした。冬期間は、今のような除雪体制が整備されていないため大雪になると数日間連休になることもありましたので学校の近くに下宿してました。農業実習では、トラクターなど機械化が進みつつありましたが、まだまだ校歌にあるとおり、すきくわ、取り手の手作業が多かったように記憶しています。

現在は、大規模化等が進みスマート農業としてGPSを使った自動運転や農業用ドローンを使った農業散布など近代化が進みつつありますが、一方で後継者不足による耕作放棄地が増えている現実もあります。

高校再編で下井農林高校も存続が危ぶまれていますが、農業後継者の育成はもちろん、この地域にとってなくてはならない重要な教育の場でもありますので存続することを切に願うものです。

最後になりますが、峻嶺会の皆様と関係者の皆様のご活躍をご祈念申し上げてご挨拶とします。

支部長に就任して

村役場支部 岡田 孝夫



日頃は峻嶺会活動にご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。今年度より木島平村役場支部長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

職場が役場であることもあり農林高校生の日頃の活動やイベントなど目にする機会が多く、生徒の皆さんの活躍や笑顔に触れ、楽しく高校生活を送っている様子がかげがえることで元気をもらっております。そんな私ですが、卒業してから早いもので32年が経過し50歳になりました。高校生活の懐かしい思い出を振り返りながら気持ち若く職務に専念しております。

峻嶺会では、異なる組織あるいは年代間で様々な情報交換や交流が気楽に行えることが意義の一つと考えます。ここ数年間はコロナ禍でありましたがよう



信州学(1年) 北島平村探訪(6月)

やく通常の生活に戻りつつあります。同窓生と会って直接言葉を交えることの大切さ、会話から広がる人との繋がりが活力の源になると改めて実感しております。そして、峻嶺会員の皆様の活躍が原動力となり峻嶺会及び下井農林高校の更なる発展につながると信じています。

私も支部長の一人として、微力ながら皆様の活動を応援してまいります。

支部長に着任して

J A 支部 勝山 成貴

令和4年度より、J A 支部長として46名(令和5年12月現在)の同級生の役員を賜りました勝山です。J A 支部では、J A の合併等により同窓生(旧J A 北信州みゆき管内)の配属も北信全域となり、主だった活動は行っておりませんが、同窓会報の配布を通じて、繋がっている状態です。支部活動を停滞させておりました支部会員の皆様には誠に申し訳ありません。

昨年ようやくコロナでの制約が解かれ、自由に活動が出来るようになりました。しかし、昨年の秋口より、再びコロナ感染の拡大・インフルエンザの流行により、体調を崩す方々が、私の周りでも多く見受けられました。何と言っても人間体が資本です。同窓生のご健康とご健勝を願い着任のご挨拶と致します。

農林高校「この一年

農業科主任 長原 正夫

「地域」に特化した探究的な学びを通して、北信州の産業振興と持続的発展を支えるリーダーの育成を目指し、新学科「地域創造農学科」がスタートし2年目となり、3年生は最後のアクリサーピスコ・グリーンデザイン科となりました。アクリサーピスコ・グリーンデザイン科には、合わせて8つのコースがありますが、今年度も特色である地域を学びのフィールドとした活動は多くの実績を残しました。

グリーンデザイン科が取り組むをスタートした、菜の花類の外来種ハルザキヤマガラシの駆除活動は、今年度、生徒会と農業クラブが主体となり、5月に飯山市職員と一般の参加者、飯山高校の生徒も交えた約80名で行いました。同じ5月には、地域資源活用コースが村内の史跡を巡る観光ツアー「新緑ツアー」を企画・運営し、村内外から17名の参加があり、新緑を楽しみながら村に残る歴史的建造物を興味深く見学しました。



農林市の様子(10月)(上)
木曾馬のお散歩(下)

県大会のプロジェクト発表会・分類Ⅱ類において、「地域に貢献できる商品開発」と題して、地元ゆきネギを使用した、ねぎジャムの商品開発を発表し最優秀賞に輝き、北信越ブロック大会への出場を果たしました。本校におけるプロジェクト発表での最優秀賞は、平成15年以來の快挙であり、生徒にとって大きな自信となりました。また、本校の取り組みには、農く県大会で発表すれば優秀賞・最優秀賞に輝く素材が沢山あることを強く感じた受賞でした。

学習成果披露の場・6次産業の実践的な活動の場として例年開催されている「農林市」は10月28日、道の駅ファームス木島平で開催し、多くの来場者でにぎわいを見せました。午前10時の開店を前に常連客が行列をつくり、植物科学コースが栽培したキャベツは販売開始20分で完売。木曾馬の馬鈴号が特別出演し、記念写真の主役を務めていました。

農林高校は、地域からの信頼も厚く、地域から愛され、必要とされている学校です。しかし、学科改編による教員定数削減の話もあり、学校運営・農場運営における課題は山積みです。農林高校にとって、重要な選択をしなければならぬ時期が来ています。

農業鑑定競技に出場して 地域創造農学科2年

白川 和花

農業鑑定競技出場にあたり、夏休みから勉強を始めました。夏休み中、一緒に出場する友達と予定を合わせ、一日中勉強を互いに教え合いながら頑張りました。私は、昨年出場したのでも、昨年の事も活かしながら勉強しました。夏休み明けからは本格的に勉強を始め、一緒に農業鑑定の出場者と第一実験準備室で16時から18時まで勉強を行いました。わからないところは先生に聞きに行ったり、自分で調べたり大変な事ばかりでしたが、出場者の皆とても楽しかったです。勉強しあうことができた私は昨年と同じ農業分野を勉強しました。一年の時は何から手をつけたらいいか、わからず困る中勉強していましたが、今年は自分で行動する中で、しっかりと勉強する事ができました。本番までの時間はあっという間で、熊本に着いて、1日目は皆移動等で疲れていました。2日目の本番に向けて勉強をギリギリまで行いました。会場は沢山の人がいて、とても緊張しました。出場者がそれぞれ違う会場に向かい、本番が始まりました。私は緊張している中本番に集中して、今まで勉強してきた事を、少しでも活かせるように取り組みました。農業鑑定が終わった後、どんな感じだったかなど報告しあって、皆で結果を待ちました。結果が出るまでは、熊本での観光を少し楽しむことができました。3日目にそれぞれの結果を教えてくださいました。今

回惜しくも皆優秀賞に入ることができませんでした。が、今まで皆で勉強したりと得られたものがあつたので、良かったです。私は、今回の農業鑑定でいい結果を出すことはできませんでしたが、本番までの時間で皆と協力し、勉強をして沢山得られたものがあると思うので、来年に活かせるようにしたいと思います。

お米甲子園に出場して アグリサービス科3年

福田 龍一

お米甲子園では、課題研究で栽培したお米が高校生の部で特別優秀賞まで昇り詰めることができました。会場内には他の県からも来た高校生も多く会話をしている中で、農業はその地域や自然条件にあった栽培方法が必要だということ学べました。今回賞を取れたのは色々な先生方や友達の協力があったからこそ。それだけではなく木島平村地区に流れている水も関係していると思います。

卒業後は長野県農業大学校に入り、将来祖父の跡を継ぎ農業を営んでいこうと考えています。今回のことを生かしより高品質なお米を栽培できるように研究などをしていきたいと思っています。



米・食味分析鑑定コンクール国際大会in津浦(12月)

生徒会長を通して 生徒会長 橋澤 寿堯

今年の1年間は、生徒会として多くの活動を行うことができました。その一つとして今年にはボランティア活動を多く行うことができました。4月に行われた中村区清掃活動では、保健美化委員会と協力して、普段お世話になっている中村区で落ちているゴミを拾う活動を行いました。学校での活動を通して、地域に貢献していくことが目標だったので、達成感があったのを覚えています。5月に行った外来種ハルサキヤマガラシの駆除活動では、今年から、生徒会が主体となり、飯山市と木島平村の二箇所で行う大規模なものになりました。当日は在校生の参加もそうですが、一般の方の参加が想像以上にあり、とても驚き嬉しかったです。先輩方が作ってくれた外来種マップを参考にしたり、去年はコースの活動として、行っていった駆除活動が身を結び、今回多くの人たちに外来種の問題を知っていただき、一緒に駆除活動をすることができました。今まで、諸先輩方の努力の集大成になったのではなにかと感じています。この活動を今年で終わらせるのではなく、来年、再来年と活動を続け伝統的なものになっていけば良いなと思っています。また、ハルサキヤマガラシだけでなく、今年以上にボランティア活動を行って行って欲しいと思っています。今年一年間の活動を通して、多くの方に助けてもらった一年間だと感じています。私だけではできないことも、生徒会の仲

間と協力しながら一緒に考えることで、協調性や課題解決能力が身についたと感じています。そして何より、多くの先生方に助けていただきました。私が悩んでいる時などは、親身になって寄り添っていただきました。また生徒会だけではなく、クラスメイトや後輩の意見を聞き、取り入れ、活動に移すことができました。生徒会長でしか学べなかったこの大きな経験を武器に、そして糧にしてこれからの人生に役立てていきたいと思っています。地域の皆さん、今年一年間、ご協力いただきありがとうございます。

農業クラブ活動について 農業クラブ会長 藤澤 欄



そば部表彰(8月)(上)
校内農業鑑定競技会(下)

今年は昨年より新型コロナウイルスの規制が緩和され、多くの活動を行うことができました。5月には昨年度も行ったハルサキヤマガラシの駆除活動を行いました。今年是一般の方や飯山高校の生徒、飯山市職員の方と本校の生徒と一緒に行うことができました。飯山市や木島平村の景観を守ると共に、多くの方にハルサキヤマガラシのことについて知ってもらえたいと思います。6月からは、今年で35回目となる飯山市フラワーロードに参加しました。農業クラブ委員



農業クラブ活動
ハルザキヤマガラン駆除活動
フラワーロード植栽活動

と本校のボランティアで参加してくれた生徒と一緒に、飯山市城址公園前の花壇の除草や花壇作りを行いました。本校で栽培している花も一緒に移植し、きれいな花壇ができあがった時は達成感がありました。

10月に日本学校農業クラブ全国大会が熊本県で開催され、私はクラブ員代表者会議に参加しました。そこで各学校のSNSの取り組みについて聞きました。その後、「SNS」に関する取り組みをどのように発信していくかについて考えました。結果、体験活動を多く行い身近な所からSNSに興味を持ってもらうことが必要だと感じました。

今年度は、農ク第1地区の理事校を担当しています。5月に第1地区第1回地区会が本校で行われました。昨年度と今年度の事業計画や、予算案について話し合ったあと、私達が学んでいる地域資源を活用した交流会を行いました。放置竹林を利用した竹飯盒や未利用木材を利用したモルックを行い、交流を深めました。お昼に、竹飯盒で炊いたご飯と自分たちで作ったカレーを食べました。みんなで協力して作ったこともあり、とても美味しかったです。初めて準備から運営までを行い戸惑う部分も多くありました。ですが、

同じ農業クラブ員や顧問の先生と連携を図り、協力してより良い地区会にすることができ嬉しかったです。

今年は様々な場面で農業クラブ活動に関わり、多くの経験をすることができました。この経験を後輩たちに伝え引き継ぎ、来年度も農業クラブでの活動が活発になることを願っています。



農林祭の様子(7月)

今年の第76回農林祭も最後まで全校が楽しんで終えることができました。今年のテーマは『笑門来福』でした。このテーマに込めた理由は、昨年度まで新型コロナウイルスの感染予防のため農林祭を縮小して開催されたこと、来場者も生徒の家族だけになり、地域の人は来ることが叶いませんでした。しかし、コロナの感染症が5類になったことで、縮小をなくし地域の人も来ることができるよう農林祭を行いました。そこで、テーマをコロナによって制限されていた楽しさを開放し全校、地域の人が存分に笑い楽しめる場所になるように『笑門来福』というテーマを目指しました。

今年の農林祭では、初めてクラスステージという企画を農林祭1日目にを行いました。各クラスの生徒が協力し、全校の前で発表しました。クラスの日常動画やチャレンジ動画、全校の眼の前でダンスなどを披露するなどクラスが一致団結し作り上げたことを良く表していました。その後の中夜祭では全校生徒で

農林祭を終えて 農林祭実行委員長 栗岩 俊也

さまざまなイベントを行いました。みんなの笑い声が飛び交い、良い1日目となりました。

農林祭2日目では一般公開となり多くの方が来てくれました。1、2年生は教室を使いお化け屋敷や縁日などを企画していました。そして、3年生は中庭にて初めての屋台を開きました。コロナの影響が緩和されたことで飲食ができ、初の試みでした。焼きそば、かき氷、フリフリポテトを販売し多くの方に買っていただくことができました。良かったです。その他にも学校で飼育している動物と触れ合えたり、学校で作った加工品を販売したりと農林高校らしい文化祭になりました。

そして、後夜祭では最後にグラウンドにスウェーデントーチを設置し全校で手持ち花火を楽しんで締めくくりました。

昨年度より自由になった農林祭はとても素晴らしいものでした。今回のテーマ『笑門来福』を体現するに値することができたことです。3年最後の農林祭を忘れずに記憶に残したいと思います。

校歌・応援歌のCD販売中

CDには校歌、応援歌No.1、No.2とそれぞれの曲なしを収録

校歌・応援歌

CD1枚1,000円にて販売中。ご希望の方は峻嶺会事務局までお問い合わせください。

会報閲覧はホームページへ

同窓会報をホームページで閲覧できるように準備を進めています。詳細につきましては峻嶺会事務局までお問い合わせください。

役職名	氏名	就任	役職名	氏名	就任	役職名	氏名	就任
顧問(学校長)	藤田 洋子	R5	中野	湯本 正	H20	飯柳	山	
名誉会長	高森寿実夫	R1	俊	池田 信一	H25	飯	原	北川 幸弘 H19
会長	村松 剛志	R1	科野	高野 広信	R4	富	倉	南久保 保 H30
副会長	山本 隆樹	H22	平岡	武田 武雄	H19	外	太	丸山 猛文 H29
副会長	池田 利恵子	H30	長岡	原沢 和男	H13	岡	山	渡辺 敬一 R6
副会長	渡辺 洋子	R5	木島	荻原 洋平	R3	岡	山	福原 嘉定 H5
副会長			上木	佐藤 吉一	H15	津	南	丸山 直幸 H30
常任幹事	佐藤 吉一	H23	往郷	高山 君治	H27	津	野	兼子 喜男 H19
監事	月岡 寿男	H18	穂高	金井今朝男	H29	常	盤	丸山 直幸 H29
監事	大平 初枝	H30	瑞穂	大月 清	H26	菅		飯山市役所 宮本 幸成 H30
理事	東田 山口 一喜	R4	野沢	森 修一	H28	飯山市役所	J	勝山 成貴 R4
上	坂		市	大口 昭男	H22	J	A	岡田 孝夫 R5
須	坂		栄	保坂 真一	R2	木島平役場		
山ノ内			秋津	徳竹 豊治	H11			

校内事務局

事務局長	藤巻 普之	会計	川崎 康博
事務局次長	福澤 忠男	会 庶	小室 剛

令和5年度 役員名簿

令和5年度は農林学校の歴史の中で一つの区切りではないかと感じます。アグリサイエンス科、グリーンデザイン科の最後の卒業生となります。『農林だより』や『スタグラム』でも情報を発信しており、色々と取り上げて頂いていきたいと思います。生徒の頭を多く伸ばす機会を、地域の皆様にも心強い応援をお願いいたします。

編集後記

長野県下高井農林高等学校
〒389-2301
長野県下高井郡木島平村穂高2975
峻嶺会事務局 電話0269-82-3115
FAX 0269-82-1813
http://www.nagano-c.ed.jp/nourinn/
e-mail: syunreikai@gmail.com